

# 2025年度 第3四半期決算 說明資料

2026年1月30日

塩野義製薬株式会社



SHIONOGI

# Agenda

01

**2025年度 第3四半期決算の概要**

(P.3-9)

02

**2030年Visionの実現に向けて**

(P.10-23)

- 事業投資の進捗
- 開発パイプラインの進展

# 2025年度 第3四半期決算の概要



SHIONOGI

# 第3四半期のハイライト

- **第3四半期累計の売上収益、営業利益および親会社の所有者に帰属する四半期利益は、過去最高を更新**
  - 一過性の増益要因として、JTグループ医薬事業のM&Aに伴う負ののれん発生益を計上<sup>\*1</sup>
- **四半期（10-12月）の売上収益として、1,477億円を計上**
  - 鳥居薬品の売上が本格的に業績へと反映
- **中長期の成長を加速させる事業投資を推進**
  - ViiV社への追加出資による持分法適用関連会社化<sup>\*2</sup>
  - 田辺ファーマ社からのエダラボン事業の獲得<sup>\*3</sup>
  - JT 医薬事業の承継およびAkros社の株式取得完了<sup>\*4</sup>

# 連結経営成績

売上収益および各利益項目は増収増益、通期予想の達成に向け堅調な推移

(単位：億円)

	2025年度		2024年度		対前年同期	
	通期予想	4-12月実績	進捗率	4-12月実績	UP率	増減額
売上収益	5,000	3,607	72.1%	3,336	8.1%	271
営業利益	1,850	1,487	80.4%	1,292	15.1%	195
税引前四半期利益	2,320	1,913	82.4%	1,559	22.7%	354
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,880	1,582	84.2%	1,338	18.3%	244
EBITDA*1	2,060	1,478	71.7%	1,464	1.0%	14

# 連結損益計算書

(単位：億円)

	2025年度		2024年度		対前年同期	
	通期予想	4-12月実績	通期進捗率	4-12月実績	UP率	増減額
売上収益	5,000	3,607	72.1%	3,336	8.1%	271
売上原価	16.4	15.1		13.8		
売上総利益	820	543	66.3%	460	18.1%	83
販管費*1+研究開発費	48.0	47.9		46.7		
販売費・一般管理費	2,400	1,727	72.0%	1,559	10.8%	168
研究開発費	24.0	25.1		22.9		
その他の収益・費用	1,200	904	75.3%	764	18.3%	140
研究開発費	24.0	22.8		23.8		
その他の収益・費用	1,200	823	68.6%	794	3.6%	29
営業利益	70	151	215.7%	△25	-	176
金融収益・費用	37.0	41.2		38.7		
税引前四半期利益	1,850	1,487	80.4%	1,292	15.1%	195
親会社の所有者に帰属する四半期利益	470	425	90.5%	267	59.6%	159
税引前四半期利益	46.4	53.0		46.7		
親会社の所有者に帰属する四半期利益	2,320	1,913	82.4%	1,559	22.7%	354
親会社の所有者に帰属する四半期利益	1,880	1,582	84.2%	1,338	18.3%	244

主な増減要因（対前年同期）
<b>売上収益</b>
・ 増加：国内医療用医薬品、ロイヤリティー収入、海外子会社/輸出
<b>売上原価</b>
・ 増加：鳥居薬品の売上
<b>販管費</b>
・ 増加：米国事業の販売関連費用、鳥居薬品の販管費、PMI*2費用
<b>研究開発費</b>
・ 増加：旧JT医薬事業、鳥居薬品の研究開発費
<b>その他の収益・費用</b>
・ 増加：M&Aに伴う負ののれん発生益（PPA完了前の暫定処理）
<b>金融収益・費用</b>
・ 増加：ViiV社からの配当金

# 事業別売上収益

(単位：億円)

	2025年度	2024年度		対前年同期		主な増減要因（対前年同期）	
		通期予想	4-12月実績	進捗率	4-12月実績	増減額	
国内医療用医薬品	1,435	867	60.4%	789	9.8%	78	<strong>国内医療用医薬品</strong>
海外子会社/輸出	610	489	80.2%	434	12.8%	56	
Shionogi Inc. (米国)	272	221	81.3%	175	26.3%	46	
Fetroja	-	213	-	147	44.8%	66	
Shionogi B.V. (欧州)	193	156	81.0%	129	20.6%	27	
Fetcroja	-	121	-	99	21.9%	22	
塩野義有限公司（中国）	59	45	76.1%	63	△27.9%	△17	
その他	86	67	78.0%	67	0.9%	1	
製造受託	140	102	73.0%	107	△4.4%	△5	
一般用医薬品	175	117	66.7%	127	△8.2%	△10	
ロイヤリティー収入	2,615	2,013	77.0%	1,868	7.8%	145	<strong>ロイヤリティー収入</strong>
HIVフランチャイズ	2,450	1,934	79.0%	1,835	5.4%	99	
その他	165	78	47.5%	33	140.8%	46	
その他	25	19	75.4%	11	68.6%	8	
合計	5,000	3,607	72.1%	3,336	8.1%	271	

## 国内医療用医薬品

- 増加：鳥居薬品の売上
- 減少：急性呼吸器感染症薬の売上

## 海外子会社/輸出

- 増加：欧米のセフィデロコルの売上  
(米: Fetroja、欧: Fetcroja)
- 減少：中国事業の売上

## ロイヤリティー収入

- 増加：HIVフランチャイズ (ViiV社による売上)  
その他
  - Roche社からのロイヤリティー
  - 旧JT医薬事業関連のロイヤリティー

# 国内医療用医薬品売上収益

(単位：億円)

	通期予想	2025年度		2024年度		対前年同期	
		4-12月実績	達成率	4-12月実績	UP率	増減額	
急性呼吸器感染症薬	560	273	48.7%	433	△37.0%	△160	
クービック	25	11	44.3%	5	123.8%	6	
スインプロイク	65	46	70.5%	38	18.8%	7	
オキシコンチン類	53	35	66.3%	33	6.6%	2	
その他	732	502	68.6%	280	79.4%	222	
鳥居薬品	412	241 <sup>*1</sup>	58.4%	-	-	241	
<b>合計</b>	<b>1,435</b>	<b>867</b>	<b>60.4%</b>	<b>789</b>	<b>9.8%</b>	<b>78</b>	

- 急性呼吸器感染症薬 -

- COVID-19治療薬：ゾコバ
- インフルエンザ治療薬：ゾフルーザ・ラピアクタ

# 第3四半期の実績

主要事業の成長により、売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する四半期利益は過去最高を更新



## HIVおよび海外事業は力強い成長



- LAI<sup>\*1</sup>製剤が成長を牽引
- 欧米のセフィデロコルが堅調に成長



## 上期課題の国内事業の成長



- 鳥居薬品の製品の成長
- インフルエンザ流行期での安定したゾフルーザの貢献
- 塩野義製薬、鳥居薬品の注力品のコプロモーションによる販売拡大



## 売上に応じたコストマネジメント



- 鳥居薬品を含めた販管費のコストマネジメント
- 優先順位に基づく積極的なR&D投資の推進

# 2030年Visionの実現に向けて

- ・ 事業投資の進捗
- ・ 開発パイプラインの進展



SHIONOGI

# 2025年度に実施した事業投資

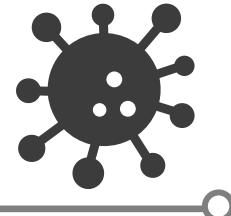
2030年Visionの実現に向け、積極的な事業投資を実施

## 多角的な事業投資を実行

### ViiV社への追加出資

目的 :

- HIV事業へのさらなるコミットメントによる経営基盤の強化



### JTグループ医薬事業のM&A

目的 :

- 自社創薬力の強化
- 国内販売の強化



### エダラボン事業の獲得

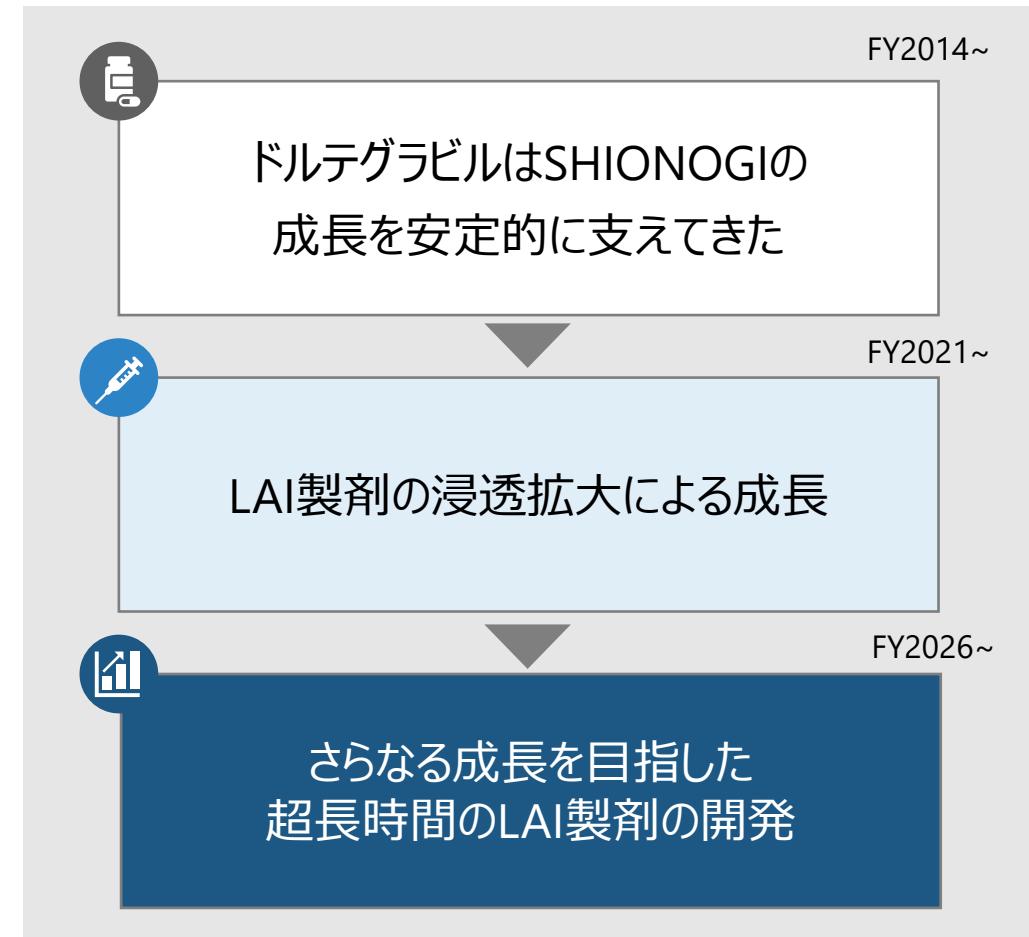
目的 :

- 米国販売の拡大
- 希少疾患領域の確立



# HIV事業の現在地

## SHIONOGIが創製した複数のインテグラーゼ阻害剤が成長に強く貢献



# HIV市場のパラダイムシフトを牽引するLAI製剤

アンメットニーズを革新的なイノベーションで解決し、連続した成長の実現へ

2021年～：1ヵ月に1回投与の製剤／2022年～：2ヵ月に1回投与の製剤

～2028年～2030年～：6ヵ月に1回投与の製剤

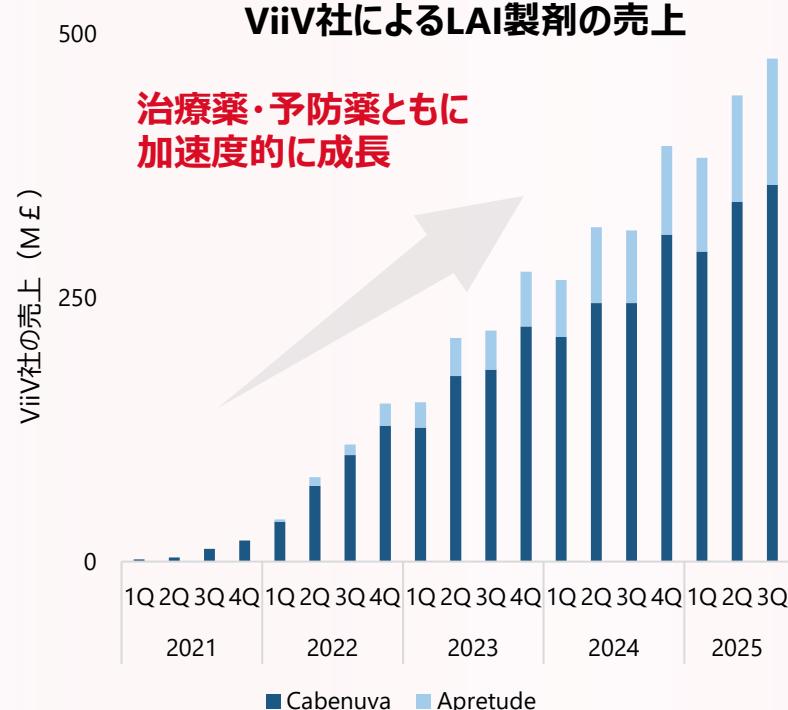
## LAI製剤の成長

## ULA\*<sup>1</sup>製剤 (S-365598\*<sup>2</sup>) の開発・上市

2021年：発売開始



2022年：発売開始



FY2021

ViiV社に導出

既存のインテグラーゼ阻害薬と異なる  
薬剤耐性プロファイル

FY2022

臨床試験開始

FY2023

臨床試験結果取得 (経口剤：Phase 1、Phase 2試験)

■ 忍容性・安全性の懸念なし  
■ ベストインクラスの治療薬と同等の強力な薬効

FY2025

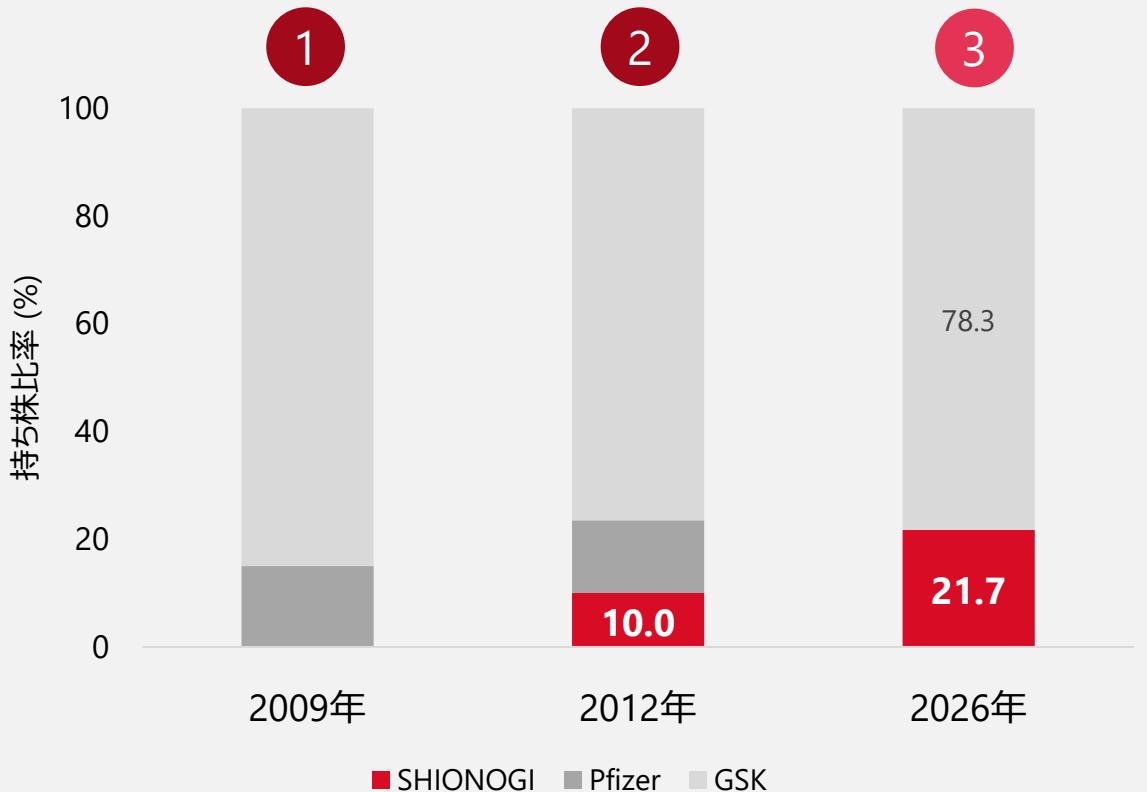
臨床試験結果取得予定 (注射剤：Phase 1試験)

注射剤での6ヵ月のPKデータを取得予定

# SHIONOGIとViiV社のパートナーシップ

ViiV社との強固な連携によって、安定的な収益基盤のさらなる強化へ

## —ViiV社の持ち株比率の推移—



### 1 ViiV社の設立 (GSK社およびPfizer社)

### 2 ViiV社と新たな枠組みに関する契約締結

- Shionogi-ViiV Healthcare<sup>\*1</sup>のアセットをViiV社へ導出
- 対価としてViiV社の株式10.0%取得、取締役1名の指名権（議決権1個）を保有
- ViiV社の売上に応じたロイヤリティーを受領

### 3 今回の持分法適用関連会社化<sup>\*2</sup>について

- 持ち株数：21.7%
- 取締役1名の指名権（議決権2個に増加）
- 関連会社化
- 配当金の増加
- HIV事業へのより強いコミットメント

# JT医薬事業の統合

革新的な医薬品を創出し、グローバルに提供するための新たな研究開発体制が始動

## M&Aの背景

創薬の難易度の高まり

新薬を生み出すために必要な  
研究リソースの増加

創薬技術基盤の整備

## 獲得した創薬基盤

### 研究者など（約670名）



リソースの大幅な増強<sup>\*1</sup>による  
自社創薬力の向上

×

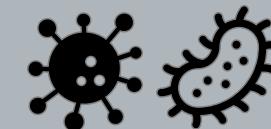
### 先端技術プラットフォーム (AI/量子コンピューター等)



データの生成および活用と  
化合物プロファイルの予測

## 実現したい姿

### 感染症領域



強固なフランチャイズ  
を維持

### QOL疾患領域



第2の強力な  
フランチャイズを確立

低分子創薬の強みを  
“感染症”から“QOL疾患”へ拡大

# 鳥居薬品との融合

営業活動におけるシナジー効果の創出とニーズを満たす製品の拡充により、国内販売を強化

## ー国内販売の強化ー



## ー両社のもつ専門性を活かしたコプロモーションを実践ー



## ーパテントに依存しないビジネスの強化ー

### ー舌下免疫療法 (SLIT\*1) ー

#### ◆ 概要

- 舌の下にアレルゲン成分を投与し、体を“慣らす”治療
- 対症療法ではなく、長期的な症状の軽減を実現

#### ◆ 期待できる効果



くしゃみ、鼻水、  
鼻づまりの改善



涙目、  
目のかゆみの改善



アレルギー  
治療薬の減量

#### ◆ 高い参入障壁

- 抗原抽出と品質管理の難しさ
- 長期の安全性および有効性エビデンスの必要性

\*1 SLIT : sublingual immunotherapy

# エダラボン事業獲得の概要

## エダラボンの全権利と米国事業基盤を獲得し、グローバルにおける感染症領域以外の成長を加速

### ー事業買収の狙いー



グローバル化を牽引する  
米国事業の拡大



重要な注力領域として  
希少疾患領域の確立

### ー取引概要ー

- ・ **対象**：エダラボンのグローバルにおける全権利
- ・ **経済条件**：
  - ① 一時金：総額2,500百万ドル
  - ② ロイヤリティー支払い
- ・ **米国展開**：タナベファーマアメリカ社が新設する事業会社をShionogi Inc.が完全子会社化

2026年度以降の売上収益および利益へ  
継続的に貢献する見通し

# アンメットニーズに応える革新的な治療薬

安全性および有効性が確立された上市品であり、今後も安定的な成長を想定

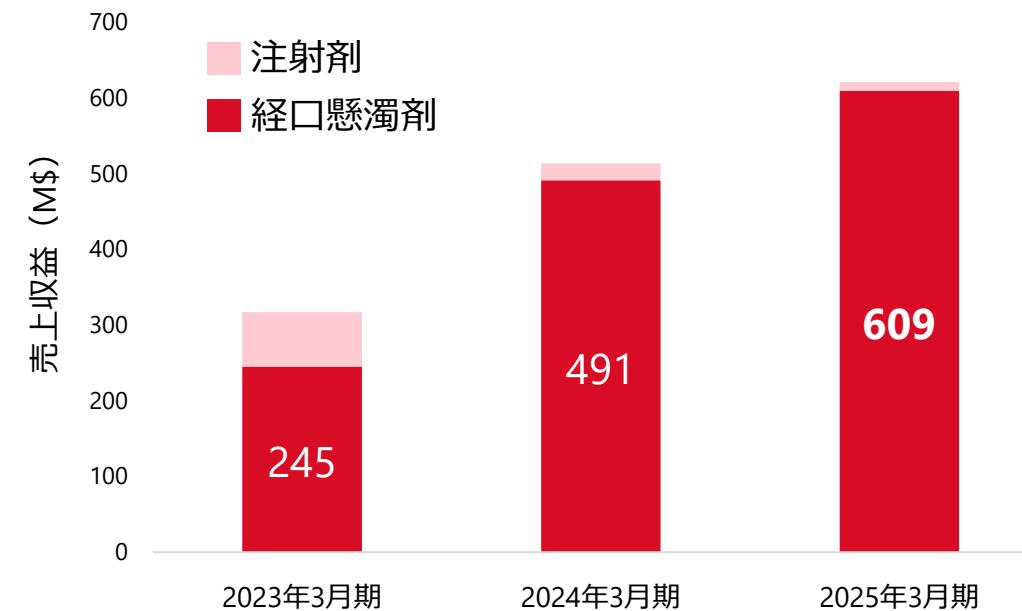
## —エダラボンの特徴—

- **適応症**：ALS\*1 における機能障害の進行抑制など
- **モダリティ**：低分子医薬品
- **剤型**：
  - 注射剤（米国上市：2017年）
  - 経口懸濁剤（米国上市：2022年）



- 経口懸濁剤によるQOLの向上**
- ✓ 嘔下障害への対応
  - ✓ 投与のための通院が不要
  - ✓ 投与時に痛みを伴わない

## —米国におけるエダラボン（Radicava）の売上推移\*2—



経口懸濁剤の伸長がRadicavaの成長をけん引

# 米国における希少疾患事業の確立へ

## 希少疾患領域の拡大に向けた強力な事業基盤を獲得

### —獲得する事業基盤—

1

希少疾患に精通する人材

2

事業運営に関するノウハウ

3

患者ネットワークとのつながり

### —中長期的な米国事業の拡大—

パイプラインの上市を見越し、販売体制を構築

発売後の速やかな拡大を目指す

上市を目指す希少疾患パイプライン

**Zatolmilast**

脆弱X症候  
Jordan症候群

**S-606001**

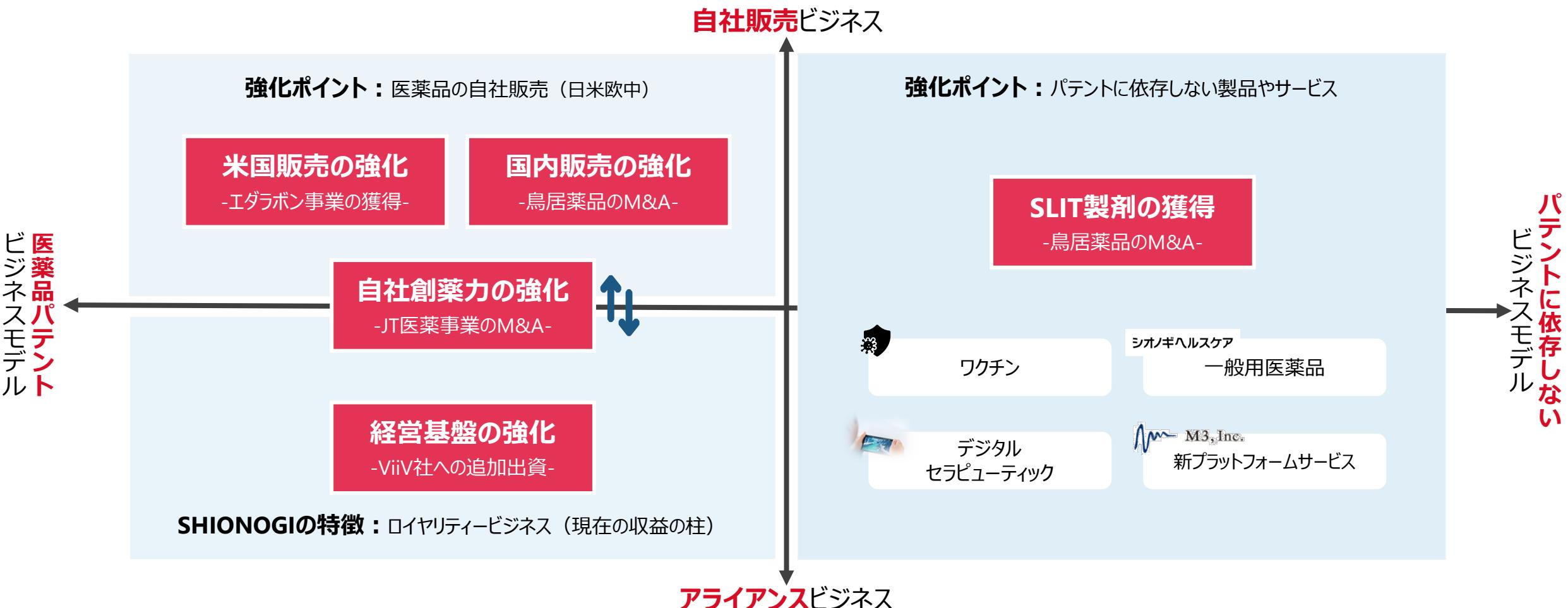
ポンペ病

**新規アセット**

・旧JT医薬事業の研究プログラム  
・さらなる獲得を検討中

# 経営戦略\*1 における事業投資の位置づけ

2030年Visionの実現に向けて、SHIONOGIの基盤を強化する投資を実施



# 2030年Visionの実現に向けて

- ・ 事業投資の進捗
- ・ 開発パイプラインの進展



SHIONOGI

# 主要な開発プロジェクト：感染症領域

プロジェクト	対象疾患	現ステージ*1	アップデート
エンシトレルビル	COVID-19 治療	申請	
	COVID-19 治療（小児6-11歳）	申請	
	COVID-19 曝露後予防	申請	
	COVID-19 治療（小児0-5歳）	Phase 3	<b>FPI*3 達成</b>
<b>S-268024</b>	COVID-19（JN.1ワクチン）	申請	<b>承認申請</b>
セフィデロコル	AMR*2（グラム陰性菌感染症・小児）	Phase 3	
<b>Olorofim</b>	侵襲性アスペルギルス症	Phase 3	<b>LPI*4 達成</b>
S-337395	RSウイルス感染症	Phase 2b	
S-892216	COVID-19 治療（経口）	Phase 2	
	COVID-19 曝露前予防（注射剤）	Phase 1	
S-743229	AMR（複雑性尿路感染症）	Phase 1	
<b>S-649228</b>	AMR（グラム陰性菌感染症）	Phase 1	<b>Phase 1速報入手</b>
<b>S-567123</b>	COVID-19（広域コロナワクチン）	Phase 1	<b>FPI*3 達成</b>

\*1 上市した国・地域を除いたいずれかの地域における最も進んでいるステージを示すものであり、特定の地域を前提とした記載ではない

\*2 AMR : Antimicrobial Resistance \*3 FPI: First Patient In \*4 LPI : Last Patient In

# 主要な開発プロジェクト：社会的影響度の高いQOL疾患領域

プロジェクト	対象疾患	現ステージ*1	アップデート
ズラノロン	うつ病、うつ状態	承認	国内承認取得
Resiniferatoxin	変形性膝関節症に伴う疼痛	Phase 3	
Zatolmilast	脆弱X症候群	Phase 2/3	
	Jordan症候群	Phase 2	LPI 達成
レダセムチド	栄養障害型表皮水疱症	Phase 2	
	急性期脳梗塞	Phase 2b	LPI 達成
SASS-001 (S-600918 + 併用薬X)	睡眠時無呼吸症候群（中枢性）	Phase 2	
SASS-002 (sulthiame)	睡眠時無呼吸症候群（閉塞性）	Phase 2	
S-606001	ポンペ病	Phase 2	
S-309309	肥満症	Phase 2	
S-531011	固形がん	Phase 1b/2	
S-151128	慢性疼痛	Phase 1b	

# Appendix

# 2025年度の為替レート

## 為替レート（期中平均）

2025年度		
	前提 (10/27)	4-12月 実績
ドル	146円	148.71円
ポンド	197円	198.98円
ユーロ	171円	171.84円

# 主要な開発プロジェクト

## - 感染症領域 -

プロジェクト	対象疾患	現ステージ	上市予定時期*1
エンシトレルビル	COVID-19 治療	申請	-FY2027
	COVID-19 治療 (小児6-11歳)	申請	-FY2027
	COVID-19 曝露後予防	申請	-FY2027
S-268024	COVID-19 (JN.1ワクチン)	申請	-FY2027
セフィデロコル	AMR (グラム陰性菌感染症 小児)	Phase 3	-FY2027
Olorofim	侵襲性アスペルギルス症	Phase 3	FY2028-2030
S-337395	RSウイルス感染症	Phase 2	FY2028-2030
S-743229	AMR (複雑性尿路感染症)	Phase 1	FY2028-2030
S-649228	AMR (グラム陰性菌感染症)	Phase 1	FY2028-2030
S-567123	COVID-19 (広域コロナワクチン)	Phase 1	FY2028-2030
S-892216	COVID-19 治療 (経口)	Phase 2	FY2028-2030
	COVID-19 曝露前予防 (注射剤)	Phase 1	FY2031-

## - 社会的影響度の高いQOL疾患領域 -

プロジェクト	対象疾患	現ステージ	上市予定時期*1
ズラノロン	うつ病、うつ状態	承認	FY2025
Resiniferatoxin	変形性膝関節症に伴う 疼痛	Phase 3	-FY2027
	脆弱X症候群	Phase 2/3	-FY2027
Zatolmilast	Jordan症候群	Phase 2	-FY2027
	栄養障害型表皮水疱症	Phase 2	-FY2027
レダセムチド	急性期脳梗塞	Phase 2b	FY2028-2030
	SASS-001 (S-600918 + 併用薬X)	睡眠時無呼吸症候群 (中枢性)	Phase 2
S-531011	固形がん	Phase 1b/2	FY2028-2030
S-151128	慢性疼痛	Phase 1b	FY2031-
S-606001	ポンペ病	Phase 2	FY2031-
S-309309	肥満症	Phase 2	開発計画検討中

# 2025年度に予定しているR&Dマイルストン

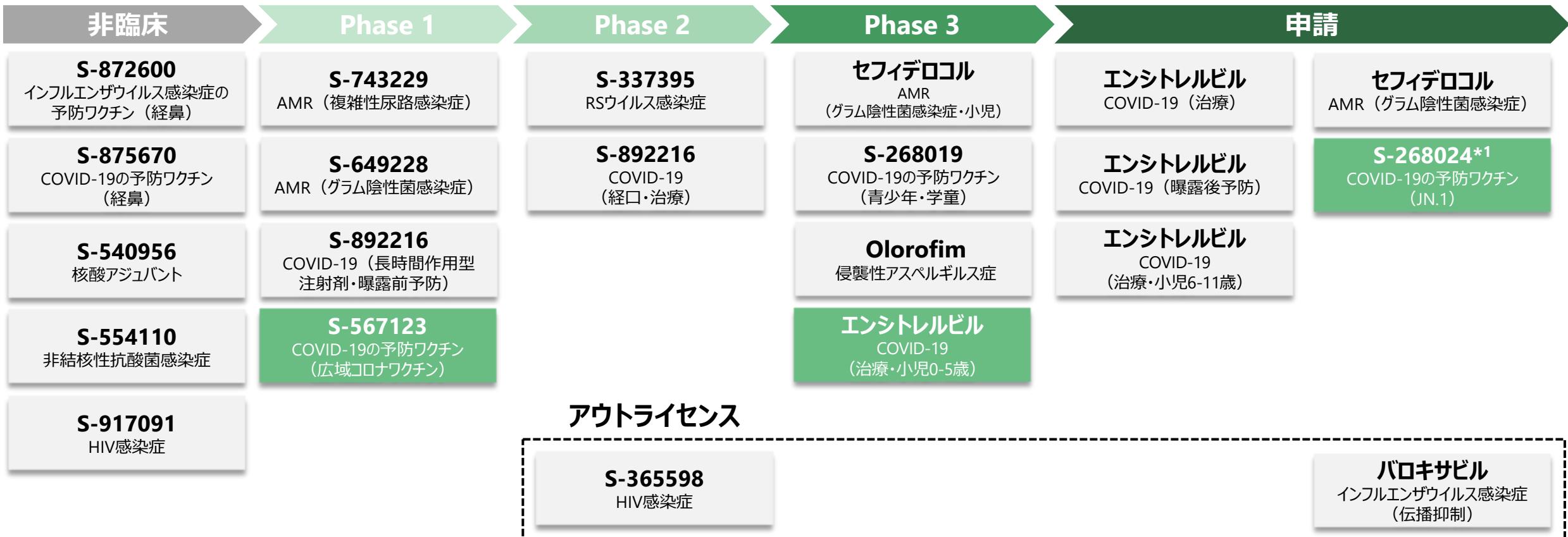
赤字：2025年10月28日～2026年1月30日の変更 ✓：マイルストン達成

※速報は入手時期を示しており、開示時期は別途検討

疾患領域	プロジェクト	対象疾患	開発ステージ	FY2025 1H		FY2025 2H
感染症	エンシトレルビル	COVID-19治療	申請	申請 (欧州)	✓	
		COVID-19曝露後予防	申請	申請 (米国、欧州)	✓	承認 (日本)
		COVID-19 治療 (小児6-11歳)	申請	申請 (日本)	✓	
	S-268024	COVID-19 (JN.1ワクチン)	申請	Phase 3速報	✓	申請 (日本) ✓
	セファロコル	AMR (グラム陰性菌感染症小児)	Phase 3	Phase 3速報	✓	申請 (米国、欧州)
	S-892216	COVID-19 治療 (経口)	Phase 2			Phase 2速報 ✓
	S-743229	AMR (複雑性尿路感染症)	Phase 1			Phase 1速報
	S-649228	AMR (グラム陰性菌感染症)	Phase 1			Phase 1速報 ✓
	ズラノロン	うつ病、うつ状態	承認			承認取得 (日本) ✓
	Zatolmilast	脆弱X症候群	Phase 2/3			Phase 2/3速報
社会的 影響度の高い QOL疾患	SASS-001 (S-600918 + 併用薬X)	睡眠時無呼吸症候群 (中枢性)	Phase 2			Phase 2速報
	S-531011	固形がん	Phase 1b/2			Phase 2速報
	S-606001	ポンペ病	Phase 2	Phase 1速報	✓	
	S-740792	多発性硬化症に伴う歩行障害	Phase 1			Phase 1速報

# 開発パイプラインの状況\_感染症

2026年1月30日現在

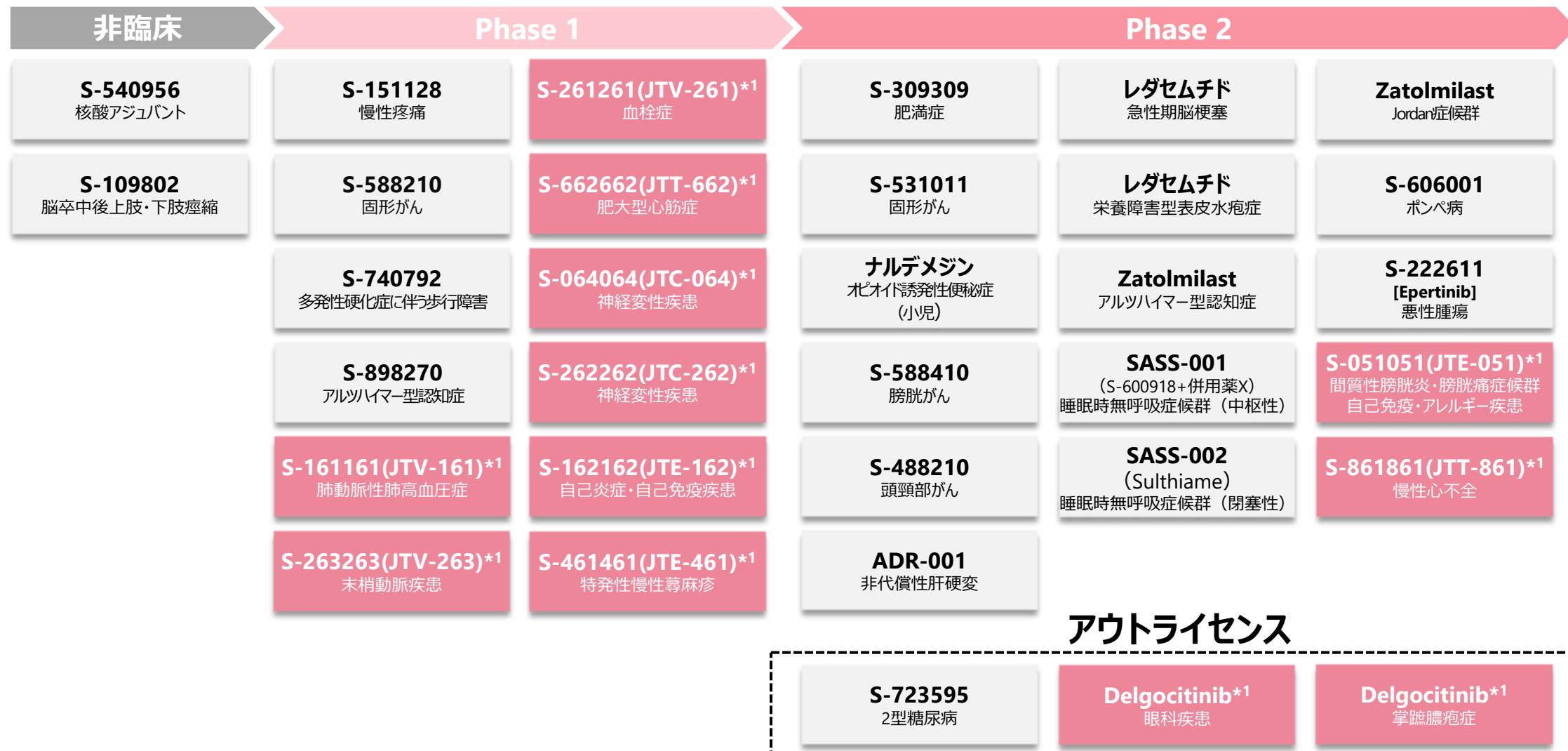


2025年10月28日～2026年1月30日の変更

- セフィデロコル：中国承認
- エンシトレルビル：Phase 3開始
- S-567123：Phase 1開始
- S-268024\*1：国内申請
- S-268023：削除

# 開発パイプラインの状況\_社会的影響度の高いQOL疾患

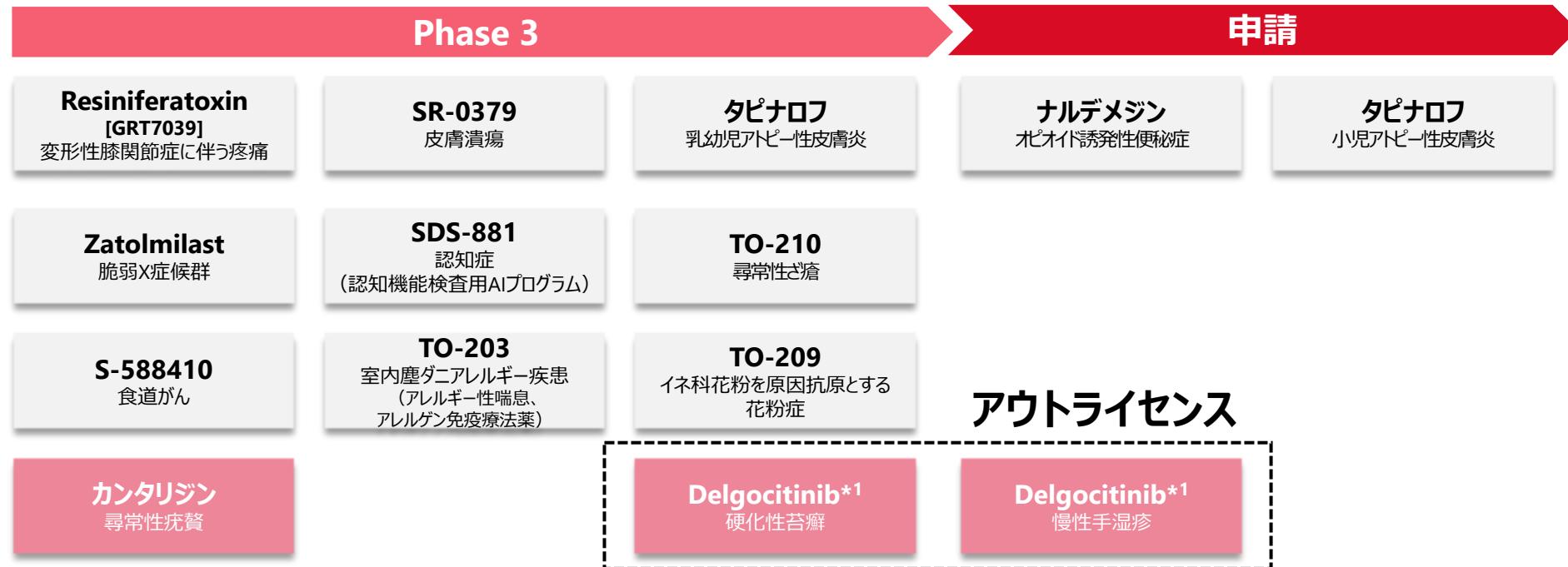
2026年1月30日現在



: 2025年10月28日～2026年1月30日の更新 \*1 M&Aで獲得した開発品

# 開発パイプラインの状況\_社会的影響度の高いQOL疾患

2026年1月30日現在



- ズラノロン：国内承認
- Delgocitinib\*<sup>1</sup>（慢性手湿疹）：中国申請
- カンタリジン：Phase 3
- Delgocitinib\*<sup>1</sup>（硬化性苔癬）：Phase 3
- Delgocitinib\*<sup>1</sup>（眼科疾患）：Phase 2
- Delgocitinib\*<sup>1</sup>（掌蹠膿疱症）：Phase 2
- S-051051(JTE-051)\*<sup>1</sup>：Phase 2
- S-861861(JTT-861)\*<sup>1</sup>：Phase 2
- S-662662(JTT-662)\*<sup>1</sup>：Phase 1
- S-064064(JTC-064)\*<sup>1</sup>：Phase 1
- S-161161(JTV-161)\*<sup>1</sup>：Phase 1
- S-162162(JTE-162)\*<sup>1</sup>：Phase 1
- S-261261(JTV-261)\*<sup>1</sup>：Phase 1
- S-262262(JTC-262)\*<sup>1</sup>：Phase 1
- S-263263(JTV-263)\*<sup>1</sup>：Phase 1
- S-461461(JTE-461)\*<sup>1</sup>：Phase 1

# ViiV社の抗HIV治療・予防薬のラインナップ

製品名	製剤	化合物*1	投与方法	投与頻度	適応	2024年売上 (£M)
<b>Cabenuva</b>	LAI製剤	CAB + RPV	筋肉内注射	2ヵ月に1回	治療	£ 1,013M
<b>Apretude</b>		CAB	筋肉内注射	2ヵ月に1回	PrEP*2	£ 279M
<b>Dovato</b>	経口 2剤レジメン	DTG + 3TC	経口	毎日	治療	£ 2,239M
<b>Juluca</b>		DTG + RPV	経口	毎日	治療	£ 685M
<b>Tivicay</b>	経口 単剤	DTG	経口	毎日	治療	£ 1,350M
<b>Triumeq</b>	経口 3剤レジメン	DTG+ABC+3TC	経口	毎日	治療	£ 1,325M

# HIV市場（治療+予防）の成長見通し

## 治療およびPrEPの市場で、LAI製剤が今後も成長を牽引する

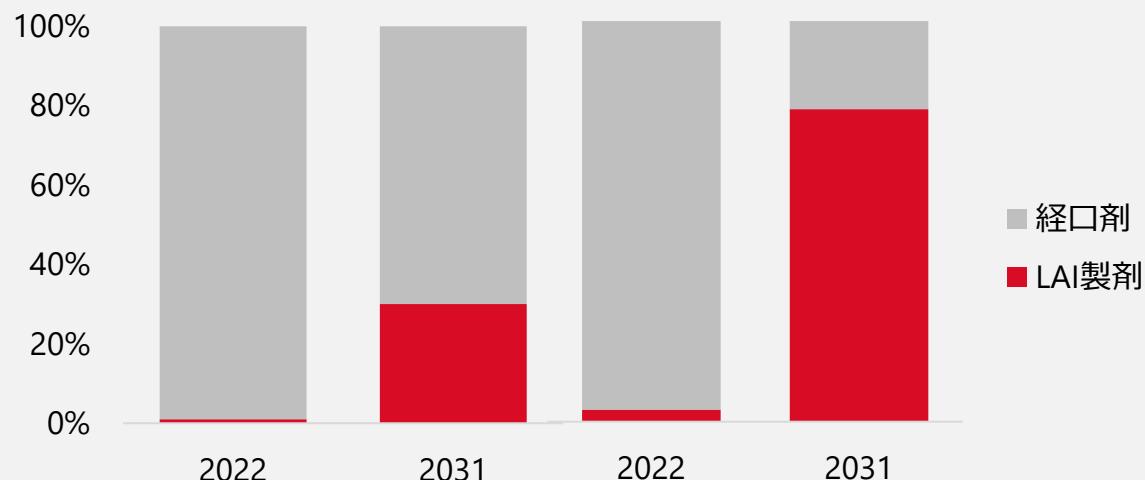
### HIV市場の見通し\*1 (治療およびPrEP市場)

#### 治療市場

#### PrEP市場

**2031年：約£200億で安定**

**2031年：£40-50億へ拡大**



► HIV市場の中心は今後も**治療市場**

### // 治療市場

- ・ 米国にて、新規感染者が近年約2.5-3%増加\*2
- ・ 経口剤のGE販売後もマーケットサイズは同程度
- ・ 今後も**インテグラーゼ阻害剤を含むLAI製剤**が主流に  
- LAI製剤は2031年には全体の**約30%**を占める予想

### // PrEP市場

- ・ 潜在的な対象者（約120万名）のうち、予防薬を使用しているのは約30%\*3
- ・ LAI製剤の浸透により、予防市場全体の拡大を想定  
- LAI製剤は2031年には全体の**約80%**を占める予想
- ・ 予防市場でもLAI製剤のインテグラーゼ阻害剤は重要になると想定され、十分な保険償還があれば市場の大部分を占める可能性

\*1 [ViiH Healthcare Meet the Management](https://www.viih.com/meet-the-management) \*2 <https://www.hiv.gov/hiv-basics/overview/data-and-trends/statistics>

\*3 <https://www.cdc.gov/nchhstp/director-letters/expanding-prep-coverage>

# その他の成果<sup>\*1</sup>

## • 11月

- シオノギファーマ金ヶ崎工場が、抗菌薬製造に関する国際認証「BSI Kitemark™ for Minimized Risk of AMR」を取得
- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の罹患後症状に対する抗ウイルス薬の効果に関する新たな臨床データを取得
- 抗インフルエンザウイルス薬「ゾフルーザ®顆粒2%分包」新発売
- IR優良企業賞2025において「"共感！"IR賞」に初めて選定
- 塩野義製薬とピクシーダストテクノロジーズ社の共同発明が「令和7年度 関東地方発明表彰」発明奨励賞を受賞  
～日常の音からガンマ波サウンド™を生成する変調音出力装置～

## • 12月

- CDPより「気候変動」および「水セキュリティ」の両分野で最高評価となる「Aリスト企業」に選定
- うつ病治療薬「ザズベイ®カプセル30mg」の国内における製造販売承認を取得
- 有毛細胞再生による聴覚機能改善の実証と革新的な医薬品の創出を目的とした Salubritis社との共同研究開発契約および出資契約の締結

## • 1月

- グラム陰性菌感染症治療薬セフィデロコルが、第8回日本医療研究開発大賞で「厚生労働大臣賞」を受賞

# 将来の見通しに関する注意事項

- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論・結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保険関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 承認済みの製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項により、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。
- 本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。